

327 術後病期 I 期肺腺癌と扁平上皮癌の予後

東京医科大学外科

○中村治彦、国井 司、上原 淳、山田哲司、新妻雅行
平良 修、雨宮隆太、河村一太、於保健吉、早田義博

目的：術後病期 I 期肺癌は、絶対的治癒切除例がほとんどであり、根治性が最も高いと考えられるが、現実には多くの再発例に遭遇する。そこで、腺癌と扁平上皮癌について予後と再発様式を検討した。

対象：当院外科で1976年から1984年までに切除した術後病期 I 期肺腺癌55例と扁平上皮癌61例である。扁平上皮癌には中心型早期肺癌11例が含まれていた。

結果：腺癌 I 期の実測 5 年生存率は、72.7% で、扁平上皮癌 I 期の85.7% に対し、手術成績は劣っていた。再発は腺癌の 35.2%、扁平上皮癌の18.0% に認めた。扁平上皮癌では再発率が低いかわりに、他臓器重複癌 3 例、肺多発癌 8 例を認めた。再発部位の追跡が可能であった症例について初発再発部位をみると、腺癌では両肺および対側肺転移が 5 例と最も多く、ついで脳 3 例、局所 3 例骨 2 例、鎖骨上リンパ節 2 例であり、血行性転移と考えられる症例は66.7% であった。扁平上皮癌では、胸壁、残存肺、気管支断端などの局所近傍の再発が75.0% を占めた。また腺癌では術後 3 年以降の再発が46.2% にみられるのに対し、扁平上皮癌では 87.5% が 3 年以内に再発していた。

考察：肺腺癌は術後病期 I 期といえども、35% 以上に再発し、晩期再発も多い。扁平上皮癌では重複癌、多発癌の合併頻度が高いので注意深い follow-up が必要となる。

329 切除肺癌再発例の外科療法の検討

京大胸部研胸部外科¹、京大医高研実験外科²

○五十部潤¹、田村康一¹、千葉 渉¹、横見瀬裕保¹、
乾 健二¹、池 修¹、中村達雄¹、岡田賢二¹、千原幸司¹
青木 稔¹、和田洋己¹、人見滋樹¹、渡部 智²、清水慶彦²

目的：切除肺癌再発例に対して行われた再切除例について再発様式と予後の関係について検討した。

対象：本院外科において肺癌再発例に対し再切除が行われたのは17例で、全肺癌手術例の 1.7% であり、男15例、女 2 例であった。初回手術時の年齢は44歳から74歳で、平均 58.8 歳であった。肺癌の組織型では扁平上皮癌 7 例、腺癌 6 例、大細胞癌 3 例、小細胞癌 1 例であり、初回手術時の病期分類では I 期13例、III 期 4 例であった。

結果：再発様式により対象を次の 3 群に分類した。I 群は、断端など局所再発に対する同側再切除で 9 例。II 群は同側肺血行性転移に対する同側肺切除で 4 例。III 群は対側肺血行性転移に対する対側肺切除で 4 例であった。初回手術より再手術までの期間は I 群は12ヶ月、II 群は 31 ヶ月、III 群は 26 ヶ月であった。再手術後の予後については、I 群の 9 例のうち 7 例が死亡しているが、術後の合併症で失った 2 例以外は長期に生存し 5 例が 2 年以上生存した。現在、再手術後、4 年11ヶ月、9 ヶ月の 2 例が生存中である。II 群の 4 例のうち再手術後 5 ヶ月、1 年11ヶ月、3 年 5 ヶ月で 3 例が死亡し 1 例は 7 年 1 ヶ月の現在生存中である。III 群の 4 例は再手術後 10 ヶ月、1 年 2 ヶ月、3 年 2 ヶ月、5 年 9 ヶ月で全例死亡した。結論：肺癌再切除後の再発例でも症例を選ぶことにより再手術後、長期生存例を得ることができる。

328 Stage I 肺癌切除例の再発に関する検討

長崎大学第一外科

○谷口英樹、綾部公懿、川原克信、君野孝二
田川 泰、原 信介、仲野祐輔、中村 徹
辻 博治、岡 忠之、富田正雄

昭和61年12月までに教室で経験した原発性肺癌切除例は521例で、うち I 期症例は209例(40.1%)である。組織型別では腺癌96例、扁平上皮癌81例で次いで大細胞癌13例、小細胞癌6例、その他13例であった。各病期別 5 年率は I 期66.3%、II 期35.4%、III 期15.6%、IV 期10.8% であった。I 期症例の死因としては、癌死64例(30.6%)、他病死19例(9.0%)で術死は 4 例であった。癌死64例のうち、再発臓器判明例は33例で、内訳は肺20例、骨7例、脳7例、腹腔内4例、創部再発が1例であったが、組織型は、腺癌21例、次いで扁平上皮癌11例、大細胞癌1例であった。再発臓器判明33例中1年以内に再発を来したものは11例(33%)で、局所再発例はなく、脳転移、肺転移症例が多かった。I 期肺癌切除例の再発例に対する再手術例は教室では13例を経験しているが、内訳は肺10例、脳、腸管、副腎各1例である。原発巣の組織型では腺癌12例、扁平上皮癌1例であった。再切除例の予後については 2 年生存例が7例(53%)であり、臓器別では肺6例、副腎1例であった。死亡例は9例で内臓死は6例と67% を占めていた。I 期肺癌でも1年以内再発例特に脳、肺転移の形式をとる例が多いことから、術前の脳、肺に対する十分な検索が必要である。また、再発例でも比較的長期生存も期待できることから、症例を選択し外科療法を考慮すべきである。

330 再発肺癌再切除症例の検討

北海道大学第二外科

○小笠原篤夫、椎谷紀彦、矢野 諭、池田淳一
菱山 真、増田知重、岡安健至、橋本正人
田辺達三

再発肺癌に対する再切除の報告は少ないが、われわれは再発、転移又は第 2 の原発癌であっても、それが局所にとどまり、再手術にて完全切除が期待できる症例に対して積極的に手術を行って来たので報告する。

対象は昭和47年より62年までに再発癌切除を施行した 10 例で、男性 7 例、女性 3 例である。再切除時の年齢は 24 才から 71 才(平均 54.3 才)、初回手術から再切除までの期間は 11 ヶ月から 86 ヶ月(平均 31.9 ヶ月)で初回手術時の臨床病期は I 期 7 例、II 期 1 例、III 期 1 例、不明 1 例であった。根治度は、治癒切除 7 例、準治癒 1 例、相対非治癒 2 例であった。組織型は扁平上皮癌 3 例、腺癌 4 例、大細胞癌、小細胞癌、腺扁平上皮癌がそれぞれ 1 例である。初回手術形式は、右上葉切除 3 例、右下葉 1 例、左上葉切除 2 例、左下葉 1 例、左上葉十気管支管状切除 1 例、左下葉十気管支管状切除 1 例、右上葉部分切除 1 例であった。再切除は左全剝 4 例、右全剝 1 例、右上葉切除 1 例、それ以外は部分切除であった。全例での再手術後の生存期間は 2 週から 13 年 7 ヶ月で 5 年生存率は約 40% であった。stage II、III の再手術例予後は 1 ヶ月と 9 ヶ月である。以上より完全切除が期待できる再発肺癌に対し今後とも積極的に手術をすべきと考える。

以上、再発肺癌の再切除症例について検討を加えた。完全切除が期待できる場合は積極的に再切除を考慮すべきであると考えられる。